

教材シート

教科領域 自立活動

	備品教材名	感覚統合（スクーターボード）	
		主とする指導の区分	
健康の保持			
心理的な安定			
人間関係の形成			
環境の把握			
身体の動き		○	
コミュニケーション			
使用方法（事例） ・座ったり、寝転んだりして乗る。自分でこいだり、引っばったりしてもらったりする。 運動企画の力を伸ばす活用法 ロープの両端を固定してピンと張り、スクーターボードに座位で乗り、両手でロープをたぐって前進する。左右交互に手を 協調させないとスクーターボードが左右に回転してなかなかまっすぐに進まない。 また仰向けになって乗り、手足を曲げた状態で忍者のようにロープをたぐって進むようにさせると、体に重力に抗した力が 必要になるので筋緊張の改善を図るのにも適した活動になる。 筋緊張の低い子どもに対する活用法 うつ伏せの姿勢でスクーターボードに乗る。頭、手、足がボードからはみ出しているため、自分で漕いで進むためには、 はみ出した身体部分に適度な筋緊張を入れて動かさなければならない。 また、この重力に抗して動く姿勢は、顔を上げるために頸筋や背筋の緊張を必要とするため、筋緊張のコントロールの格好の学習になる。 初めは適度な緊張が入りにくく、顔も上げにくいので、はっきりとした目印等を用意して、動く方向やゴールをわかりやすくする工夫が必要である。		使用上の留意点 変化に富んだ課題設定が可能な教具ではあるが、子どもによってはうつぶせになること自体に恐怖心を持つ場合があるので、その場合は援助者が抱いてすわり、移動の感覚を伝えるなどの工夫も考えられる。 いずれにしろ、子どもにとって恐怖心や抵抗感のある課題設定は避けたほうがよい	
備考（シート作成にあたって参考にした文献、HP のアドレス等） 「ぴっくあっぷ教材教具」			
保管場所：運動指導室		作成日：平成 21 年 8 月 31 日	
		改定日①	
		②	
		③	

